３）九州北部で捕まえた個体：有明海流入河川（その２）

２）と同じ有明海流入河川ですが、離れた別水系になります。この場所は今年の春にはじめてタモ網を入れました。現時点で１度しかタモ網を入れたことがないので、採捕した個体数は少なく、産卵期の雄のみ３匹に過ぎません（写真 8、9）。このエリアの個体は２）の個体とは異なった印象を受け、むしろ１）近畿で捕まえた個体に似ています。

・体形：体高が高くずんぐりしている
・体側の斑紋：不明瞭
・体側の黒点：幅広く散在し、黒点数はより多い
・眼：中ぐらい
・尾柄高：高い
・体に対するひれの大きさ：やや大きい
・背びれや尾びれの暗色帯：幅が狭い
・産卵期の雄の胸びれ：追星が出ている棘状軟条が短く、先端がカクッと曲がる形

▲写真8｜九州北部（その2）産｜繁殖期の雄

▲写真9｜九州北部（その2）産｜繁殖期の雄の背面

４）関東南部で捕まえた個体

近年、淀川水系で生息が確認されたとはいえ、近畿では生息地が限られ、なかなか出会えうことができない魚のひとつであることに変わりはありません。一方、移入先の関東はそうではありません。水路の岸からタモ網を伸ばして泥底を軽くすくうだけで、「またか、またか」ってびっくりするほど捕れる水路もあります。関東平野は広くて勾配も緩やかで、東部には沼などの泥っぽいところも多く、ツチフキにとっては比較的住みよい環境がそろっているからかもしれません。

関東平野でも離れたいくつかの場所でかなりの個体数を捕まえていますが、近畿の個体とはずいぶん違う印象の個体が捕れます（写真 10、11、12）。それらは中国産ツチフキ（写真 7）に良くて似ていて、近畿で捕まえた個体と比べると、体形、体側の斑紋、体側の黒点、眼、尾柄高、体に対するひれの大きさ、背びれや尾びれの暗色帯、産卵期の雄の胸びれのいずれについても、２）有明海流入河川（その１）に記した内容と同じような印象を受けます。

とは言うものの、すべての場所で捕った個体について同じ印象を受けるというものでもありません。なんか、違う感じの個体もいて、ぐちゃぐちゃしています。

▲写真 10:関東産｜雌

▲写真 11:関東産｜雄